

白石共立病院における県内初のID-link (ピカピカリンク)導入について

特定医療法人 静便堂 白石共立病院
地域医療連携室

室長 武富勝司(MSW)

宮地由加理(MSW)

会長 沖田信光(MD)

特定医療法人 静便堂 白石共立病院



ベッド数150床(一般88床 地域包括ケア病床20床 回復期リハ42床)

診療科 内科、神経内科、外科、脳外科、心臓血管外科、整形外科、循環器科
介護サービス 通所リハビリセンター、訪問看護ステーション

地域医療連携室→MSW6名 看護師2名

白石町の概要

【人口】

21,574名（令和4年4月現在） 高齢化率36.2%

【医療・介護関係施設】

病院・診療所 21カ所 歯科医院 10カ所 薬局 10カ所

介護老人保健施設 2カ所 介護老人福祉施設 2カ所

訪問看護ステーション 6ヶ所 居宅介護支援事業所 5カ所

【主産業】

農業、漁業

佐賀県診療録地域連携システム (ピカピカリンクの由来)



佐賀県鳥／カササギ（カチガラス）
学名を「Pica Pica Japonica」

白石共立病院 会長
佐賀県医師会 前会長
沖田信光先生が導入されました。

2003年に佐賀県初の本格的な電子カルテ導入&オーダーリングシステムを導入した。翌年には、佐賀大学医学部付属病院が導入、続いて佐賀県医療センター好生館と広がって行ったが、この一連の流れは、現在全県で活用を始めている医療連携システム・ID-LINKネットワークへと発展し、全国に先駆けたものとして注目を浴びた。無駄を省き、迅速に医療情報を交換し、患者の役に立つことを主眼としたものである。

2012年1月1日 白石共立病院 記念誌 沖田信光先生

2008年 白石共立病院を中心とした佐賀県南部医療連携協議会発足
(医療機関18カ所、介護関係施設4カ所)でID-link導入。
(道南メディカを参考にした。)

2011年 佐賀県診療情報地域連携システム協議会発足。

佐賀南部医療連携協議会

会 則

第1版 2008年10月1日

第2版 2009年 7月1日

佐賀南部医療連携協議会

- 2 佐賀南部医療連携協議会は、患者が望む医療を提供するため、佐賀南部医療連携ネットワークシステムにより、協議会に属する医療施設及び介護施設等医療関連施設と患者が診療情報を共有し、良質な医療に寄与することを目的とする。
- 4 佐賀南部医療連携協議会は第3条の目的を達成するために次に掲げる活動を行う。
 - 1 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
 - 2 社会教育の推進を図る活動
 - 3 情報化社会の発展を図る活動
- 5 佐賀南部医療連携協議会は第3条の目的を達成するために次の事を行う。
 - 1 良質の医療、患者の満足感達成のため診療情報の共有化を推進する事
 - 2 医療情報ネットワーク構築のための技術開発に関する事
 - 3 情報ネットワーク発展のため地区医師会、杵藤保健所、行政等との連携
 - 4 医療情報関連産業を通じてネットワーク構築成長に寄与する事
 - 5 知的所有権の管理に寄与する事
 - 6 地域医療ネットワーク普及活動
 - 7 上記の諸活動を行う団体の支援
 - 8 その他この協議会の目的を達成するために必要な事

【会員】

- 正会員 佐賀南部医療連携協議会の目的に賛同して入会した個人及び団体
 - 正会員A：病院
 - 正会員B：診療所
 - 正会員C：その他の医療関連施設、介護関連施設
- (2) 賛助会員 この協議会の事業を賛助するために入会した個人及び団体

佐賀南部医療連携システムを稼働するにあたり

佐賀南部医療連携協議会における連携のテーマ



『顔の見える連携』

- ・佐賀南部医療連携協議会の立ち上げ
- ・協議会に役員を配置(主に各施設機関の管理者)
- ・月例協議会を開催
- ・役員および実務スタッフが参加
- ・システム操作講習
- ・運用にあたる取り決め
- ・各加盟機関からの要望聴取、改善検討

佐賀県南部医療連携システム加入機関(閲覧施設)からの声

- ①診断のダブルチェックになる(診療所 医師)
- ②入院された患者の場合は、リアルタイムで治療内容を見ることができ大変勉強になる。(診療所 医師)
→野球をリアルタイムでみるか、スポーツニュース(報告書)でみるか。
- ③施設入所者で炎症所見等から治療の必要が出た場合、以前の治療過程を参照し、抗生剤投与および点滴治療の参考にしている。(施設医師)
- ④検査データを参照することで施設再入所のおおまかな時期の把握ができる。
(介護施設相談員)
- ⑤施設のリハビリスタッフが画像データを見ることができる。(介護施設PT等)
- ⑥医療情報の収集量が増え、リスク管理を事前に考えることができた。
(介護施設スタッフ)

患者および家族からの声

- ①お金がかからないですか?→説明文書に入れることになった。
- ②紙がいらなくなるとエコになりますね。
- ③医療機関にレントゲンフィルムを持って行かなくていいんですね。
- ④よく既往歴や過去に受けた検査結果を聞かれることがありますがなかなか上手く説明できなかったけど、今からはこのシステムを活用してもらえば、助かりますね。

なぜ白石町で佐賀県初のID-LINKの活用が
順調にスタートしたか？

①白石合同カンファレンス(2005年)

白石共立病院において、当院の医師および開業医の先生方と勉強会を1回/月で開催

②稲穂の会(1999年)

白石共立病院 元院長 眞島東一郎先生が中心となり、医療・介護関係スタッフの連携協議会発足。

→白石町医療・介護連携協議会→在宅医療・介護連携推進事業運営委員会(武雄杵島地区医師会)

まとめ

- 沖田信光先生の強いリーダーシップのもと、県内初めて電子カルテを導入、同時にICTを活用した地域連携を戦略的計画として考えられていた。
- 眞島東一郎先生の草の根的な地域活動の結果、「顔の見える連携」が構築されていた。

私見(ピカピカリンクに関わって)

- ①ICTを活用した地域包括ケアが推進されている。
- ②一部の医療関係者、介護関係者しか利用していないのではないかな?
- ③患者自身がこのシステムを活用できるようにならないかな?→マイナンバーでの登録等
(糖尿病手帳、高血圧手帳等、投薬内容をスマホで見る。災害時等に役に立つ。)